

生ける水

発行者
日本福音教会連合
岡山市北区丸の内
1丁目11番15号
理事 長 倉賀野 攻
編 集 太 田 正 信

わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう。ヨハネ7:38

目次

P.1	今は、目覚める時	倉賀野 攻
P.1	時の声	
P.2	教会巡り⑯ 徳山キリスト教会	渡 辺 隆
P.2~3	いのちの雫	佐々木寛治
P.3	夏季聖会の恵みと証し	鄭 順葉美子
P.3~4	夏季聖会の恵み	中 島 恵子
P.4	夏季聖会の恵み	阿 部 孝
P.4	報告・案内 etc	

夏季聖会への招き

今は、目覚める時

岡山中央キリスト教会牧師

聖会委員長 倉賀野 攻



「あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救いが、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである」(ローマ人への手紙十三章十一節)

二〇一一年の第四十一回、夏季聖会が近づいてきました。各教会の、先生方、信徒の皆様方、どうぞごぞって御参加下さいますようお願いいたします。今年三月、東日本が、未曾有の大震災に見まわれ、津波や、福島原発事故等、目をおおいたくなるような惨状です。少しずつは復興に向っているとは思いますが、一刻も早い回復と、原発事故の終息を祈らずにはおられません。それと同時に、この事を通して神様が、私自身を目覚めさせて下さったような気がし

てなりません。

冒頭の聖書の御言葉のように、今こそ、私自身が眠りから覚めるべき時なのだと痛感いたしました。そういう時に夏季聖会が開かれるということとは、時期を得た恵みです。目覚めるということは、

第一に、再臨が近いということに目覚めることです。なんとなくこの世の終りが近い。地震や、戦争や、偽キリスト(異端)の出現等で終りの時代だということは、わかってきています。

しかし、イエス・キリスト様のおいでが、今日かもしれない、明日かもしれない、という緊迫感が乏しくなっている事を悔い改めるものです。「なぜなら今は、わたしたちの救い(再臨)が初め信じた時よりも、もっと近づいているからである」(ローマ十三章十一節)夏季聖会での讚美に選ばれました三曲の中の一つに「いつ主は来り給うや、たれも知らねば、われらは絶え

ず目さめ、守るべきなり」(新聖歌一四九番)とある通りです。

第二に、きよめの信仰に目覚める時です。

私は五〇年以上前に救われ献身しましたが、その頃は、きよめの信仰が盛んでした。なんとかもっときよくなりましたという思いが強くなりました。そういう時代に信仰が育てられました事は感謝でした。

しかし、最近、いつのまにか、きよめの信仰がボヤけてしまったなあと思うようになりました。今回の夏季聖会に於て、もう一度、きよめの信仰に目覚めさせていただきたいと切に願っています。「きよくならなければ、だれも主を見ることはできない」(ヘブル人への手紙十二章十四節)第三に、伝道、救霊に目覚めることです。今回の大震災でわかりますように、思わぬ時に、思わぬことが起るのです。いつこの地上の生涯が終るのかわかり

ません。とにかく伝道し、魂を救いにお導きしたいと思います。

もちろんこれは、聖霊の働きです。聖会に於て、ペンテコステの日に注がれた聖霊を私も充分にいただきたいと思ひます。

「聖霊によらなければだれも『イエスは主である』と言うことができない」(第一コリント十二章三節)

第四に、祈りに目覚める時だということです。

日本福音教会連合は、よく祈る団体です。これはすばらしいことです。各教会の祈祷会や、早天祈祷会、又、各個人の密室の祈りも充実していることと思ひます。

イエス・キリスト様が、ゲッセマネの園で血の汗を流してお祈りをしていましたのに弟子達は居眠りをしていました。私もしばしばそうになりました。申し訳けなく思ひます。イエス・キリスト様は「誘惑におちいらぬように、目をさまして祈っていなさい」(マルコによる福音書十四章三十八節)とおっしゃっています。神様は此の度の聖会に「恵みと祈りの霊を注ぐ」とお約束下さって、覚醒の業をなして下さる事を信じています。全国の愛兄弟の皆さん、ぜひ夏季聖会において下さい。

時の声

神様から「潔白で正しく、神への畏敬と悪から遠ざかる人」と認証された、義人ヨブ。「東の国一番の富豪」と言われた財産、七人の息子と三人の娘とを一日にして失ったヨブは、『私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。』と言って、このような目に遭っても神を非難する事なく、罪を犯さなかった。

更に不幸は続き、ヨブの頭のとっぺんから足の裏まで酷い皮膚病に罹った。この時ヨブは、『私たちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいたたこうではないか。』と言っている。

この出来事の結末は、神について聴いていた事から神を見る体験であり、ヨブと神の本質的な違い(聖なる全知全能者と無知で汚れた造物の人間)を知った事。そして先の災いによって失ったものの二倍の祝福でありました。

あなた方は、ヨブの忍耐について聞き、主が最後にどのようにして下さったか知っています。主は慈しみ深く、憐れみに満ちた方だからです。人生の答えがここにあります。

日本福音教会連合 教会巡り⑩

徳山キリスト教会

徳山キリスト教会

牧師 渡辺 隆

徳山キリスト教会がある山口県周南市は人口十四万九千人余の山口県東南部にある北部は中国山地と瀬戸内海に面した平野が広がる広大な面積の市で、二〇〇三年に徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町が合併してできた比較的新しい市です。

徳山キリスト教会は合併前の徳山市で一九六一年に石井守牧師ご夫妻により開拓がはじまり一九六六年より櫛ヶ浜地区で「ひかり園」という幼児保育を開設し地域に根ざした宣教を行ってきました。一九九一年より渡辺牧師が就任し、引き続き幼児保育の「ひかり園」を続けながら伝道しました。徳山キリスト教会がある櫛ヶ浜地区は高齢化が進み人口減少とともに幼児が減り続け閉園する事になりました。

その後、二〇〇三年に会堂を現在地に引き続き宣教がなされています。写真は献堂式の時の集合写真です。

さて教会として、これまで



なされてきた伝道は、ひたすら福音の種をまく事でした。幼児保育の子供ひとりひとり、その父兄をはじめ家族ひとりひとりに、みことばの種をまき続けました。

更に今も続けていますが、トラクトを一軒一軒に配布し、時には韓国からキャンバスクルセードやIVFの伝道チームが会堂に泊まりながら集中的にトラクト配布や伝道集会を行い、福音の種がまかれてきました。

最近では中四国協議会の伝道費を活用させていただき聖書配布協会の有志の人達が車で寝泊りしながらトラクト配布を中心とした伝道を行い、ただただ、まかれた福音の種が、主の時に花を咲かせ、実がなる事を祈ります。

この様に、この地域に教会を建てさせていただいた事に感謝しながら全戸に福音の種はまかれ続けてきました。

最近はおートロックのマンションや高層マンションも増えた一方で廃墟と化した家が目立つ様になり、街の感じが変化し、かつてトラクトを入れた一帯が空地になった姿を見て淋しさも感じますが、全知全能の主になん、救いは主の御業で、福音の種をまき続けています。

さて、徳山キリスト教会としての、もうひとつの柱は祈りです。教会としてこれまで、ただ信仰により聖霊様によって祈らせていただきました(ユダ20節)。

主の憐れみと信仰によって



地域の人々の救いのために祈らせていただく事が教会として与えられた大切な使命だと信じます。それは教会が神の家としてどの様にしなければならぬかと祈らせていただいた中で(エテモテ三三、十五)、やはり祈る事だと確信しています。それは会堂の中で讃美CDをかけながらぐるぐると歩き周りながら祈り、車の運転中には、目に入ったひとりひとりの救いのため、具体的に勿論名前も知りませんが、あの青いシャツの方の救い、赤いスカートの方の救いや祝福を途切れる事なく運転しながら祈り、歩きながら祈っています。そして祈っている中で思わされている事は、祈りの足りなさです。聖書の中に十分の一を献げる恵みが語られていて十分の一献金をしています。時間も十分の一、

つまり一日二十四時間の十分の一を主との交わり、祈りに使っているかと、メッセージの中で語りましたが、祈る事の足りなさで、物理的に足りなさを思われ、悔い改めさせられています。同時に祈る中で与えられる平安も感じさせていただき、主に感謝しています。

教会の礼拝等は、文字通りマタイ十八章二十節にある様に二人、三人で祈っている状態ですが、イエス様と祈らせていただき感謝です。

最近、教会の人達と同刻祈禱をしたり、全く同じ祈禱課題を祈る事で喜びも感じ感謝です。

教会として、これからも、使徒十一章二十節から二十一節にある様に、主の御手がある事を信じ、この地域に主ご自身が徳山キリスト教会をたてられた事に感謝しつつ、宣教させていただき祈り続けたいと思います。

この町には、わたしの民がたくさんいるからと言われた主のみことばを信じ従い祈りの教会として導かれたいと祈ります。

ただただ主の一方的な憐れみによって今ある事を感謝し背後にある尊い連合のおひとりおひとりの祈りに感謝します。栄光が主にあるように。

いのちの車

なるようにしかならん

大野伝道所

牧師 佐々木寛治

日頃小さき伝道所に賜っています皆様のご報告に、感謝申し上げます。本日はつい先般頂きました「救出体験」を報告して、腹の底からハレルヤを称えたく存じます。

◆年初来、わたくしはいのちのへこみを覚えまして、特に四月以降は最低限の仕事のあとはすぐ横になりたくなるという状態でした。交わりを頂いた方々とは、その都度「申し訳なかつた」の後悔が突き刺すことが増してきておりました。◆やがてある方の(キリスト教への罵倒と合わせて飛び出す)牧師本人への非難は従来とは異なり、『本当にそうだ』と鮮明に実感して、ボディブローが食い込むようになってきました。デイボーションは日毎に裁き・のろいの御言(申命記二八章)で、『主の審きは真実です』と言いつけることとなりました◆御前での祈りは深まるほどに、むしろ神の深い沈黙に出会わされるのでした。そればかりか、祈るわたくしの側がぼろぼろと崩れし丸ごと沼地に沈下する感覚に襲われ始めまし

夏季聖会の恵みと証し

多摩キリスト教会

牧師 鄭 順 葉



この世は悲しみから避けようとしています。しかし、私たちが受ける神様のご計画による悲しみは良いものをもたらすものです。

この頃、地震、津波、原発事故を通して、悲しいことが沢山あります。

「見よ、兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう。それはこうべに注がれた尊い油がひげに流れ、アロンのひげに流れ、その衣のえりにまで流れくだるようだ。」詩篇一三三篇一節

今年も夏季聖会を期待しています。きれいな自然、おいしい果物、特に、私の好物であるマンガは格別なものです。昨年、郷家一二三先生をお招きしての恵み豊かな聖会でした。

わが教会もこの震災を通して日本を離れる家族が生じたのです。幾人かが離れていたのですが、その中には十年以上教会に通っていた信心深い家族がいます。信じてくれない事ですが、現実として形になって行く時に、その悲しみは夜も昼も消えませんでした。帰らないように祈ったのに、彼らの心は変わりませんでした。私が何を言っても意味がないと思つて祈りました。そうすると、私の心に平和が戻りました。

今年も夏季聖会が近づいてきました。第一回目を大山でスタートした聖会は、昨年四十回記念の時を迎え、その恵みに与かることができて感謝でした。



牧師 中 島 恵 美

夏季聖会の恵み

浜田キリスト教会

何日か後、韓国の弟から電話が入りました。九十歳になる母がアメリカにいる兄に会いたくて病気がかかって入院したとのことでした。

肉の親の悲しみが分かりました。悲しみの中で悔い改めてわが心を苦しめていた親不孝の罪から解放することができそうです。

その数年後のことです。当時、きよめの恵みに与かりたいと求めています。今振り返れば、私の身近にいた人達がきよめの恵みに与かったことを見てあげられ、そして焦っていたと思います。人ばかり見つけていた時に、聖会を通して語られた言葉によって、心の目を人から主へと方向転換できるように語って下さいました。その後長い時

をかけて、恵みへと導いて下さいました。この頃、自分の将来についても考えていたのですが、献身については、全く考えたことがありませんでした。聖会の中で語られた献身への招きのことが心に残り、主が直接献身へと招いておられることに気付かされた時は、本当に驚きました。

◆この崩落沈下の息苦しさを求める始めました。わたくしは、気づかされた。以前には、『主よ、こんな自分を焼いて下さい、殺して下さい』と力をこめて叫んでいた自分だったのだと。◆このなかでわたくしは、患難と希望についてのパウロの言葉(第二コリント、ロマ書)はさておいて、「この身では、なるようにしかならん」と、あるときふと口走ってしまいました。すると一挙に、わたくしの身は落ち始めました。途中までは意識がありました。◆横たわったままのわたくしに聞こえ始めたのは低い宣言口調の声、死んだ者にも福音が告げ知らされた。『!このおれに福音が!』安息・平安そのもの……やがて晴れやかな声で、神との関係で、霊において生きるようになるため、(第一ペテロ4章6節新共同訳) わたくしはここに初めて『父よ、わが霊を御手にゆだね』の実体験をいただいたようであります、ハレルヤ

とが赦されています。主に期待しています。
「主よ。今、私は何を待ち

望みましょう。
私の望み、それはあなたです。」 詩篇39篇7節

夏季聖会の恵み

鴻南福音教会

牧師 阿部孝子



岡山で聖会...
のですね。「聖会の恵み」ということで頭に浮かぶのが大山での聖会です。会場が理観院で雑魚寝、正座をしてのメッセージの拝聴、一人用テントでの連鎖祈祷。今では味わえない経験ですが懐かしく思い出されます。また、会場が大山観光会館となり、宿泊が何カ所に分けられるようになったときには、どこに、誰と一緒にいるのか毎回ドキドキしたものです。(宿泊場所によって食事も違っていま

たね) 以前も紙面でお証しさせていただきましたが、忘れることができないのが、なんと言っても献身に導かれた第十三回大山聖会、講師は有賀喜一先生でした。これより二、三年前から、宣教会で神様が促しておられました。いつも応答しないで逃げていました。また、応えなかったことの敗北感と後味の悪さを数年味わっていました。この年、招きの中で今、絶対応えなければ...と言う強い気持ちで押し出されるように御前に進み出ることができたのです。このとき、故加藤博重先生が私に手をおいて祈って下さいました。
「あなた方を召された方は真実であられるからこのことをしてくださいであらう」1テサロニケ五章二四節と。そして清々しく晴れやかな気持ちになりました。この経験がうれしくてうれしくて、気

報告・案内

◆岡山勝栄基督教会(太田正信牧師)では、五月一五日(日)倉賀野博子先生(岡山中央基督教会牧師)をお迎えして、特別礼拝をされました。
◆関東地区協議会の牧師会が六月六日(月)日本弟子たちの教会で行われ、春の聖会の感謝と反省、秋の聖会「関東聖会」について協議された様に決まりました。日時、九月二三日(金)御前と午後の二回。講師、鶴沼芳道先生(富士見望キリスト教会牧師)、三浦愛先生(聖泉キリスト教会牧師)

会場、多摩キリスト教会。
◆日本福音連盟第44回総会・神戸大会が、日本イエス・キリスト教団、神戸中央教会とチサンホテル神戸で開催され、倉賀野政先生と太田正信先生が出席されました。
◆連合主催、第41回夏季聖会にご出席ください。
会場は、風光明媚な吉備の里にある国民宿舎、サンロード吉備路。講師は、日本伝道隊理事長の小紫義弘先生と連合諸牧師。二泊三日の聖会プログラムと温泉とご馳走による、霊と心と体の癒しと満ち。救い主イエスは、あなたを待っています。

持ちも高揚していたせいか寝ることもできず、石井緑先生を誘って時間が経つのも忘れて恵みを分かち合い祈り合ったことです。
宿坊のあたりは自然に包まれ澄み渡った空気の中散策することができ、ゆっくりにはむことができたことほども感謝なことでした。
もうセピア色に化した二十八年も前のことです。
「聖会」の場は様々な喧嘩からはなれてじっくりと神様に向き合う場です。少し昔(?)と現在では環境も時の

流れの感覚もまるで違うようにも思われます。けれどもきつと同じように神様は「聖会」をご準備下さっていることと思えます。メッセージに突き動かされ、神様は私をどうしようとしておられるか考え、私はどうするかを考え、祈り、どう応えるのかを判断させていただく絶好の時だと思えます。神様の導きの中へ一歩踏み出したとき、そこに用意して下さっているものは私たちの想像を遥かに超えたよきものであることも間違いないでしょう。

プログラム

8月2日(火)	8月3日(水)	8月4日(木)
	早天祈祷会 6:30~ 説教、阿部俊昭師	早天祈祷会 説教、加藤信治師
	朝食 7:30~	朝食
	第3聖会 10:00~ 説教、小紫義弘師 司会、加藤信治師	第6聖会 説教、小紫義弘師 司会、稲田敏朗師
	昼食 12:00~	昼食
受付 13:30	第4聖会 14:00 説教、倉賀野政師 司会、朴永信師 聖歌隊練習	
第1聖会 15:00 説教、太田正信師 司会、三浦愛師		
夕食 18:00~	夕食	
第2聖会 19:00~ 説教、小紫義弘師 司会、戸叶誠師	第5聖会(宣教会) 説教、小紫義弘師 司会、太田正信師	

第41回 夏季聖会

講師 小紫義弘師(日本伝道隊理事長)

主題 イエスを仰ぎ見つつ

聖句 『イエスを仰ぎ見つつ、
走ろうではないか』
ヘブル12章2節

『彼らが目をあげると、
イエスのほかには
だれも見えなかった』
マタイ17章8節

会場 サンロード吉備路

